
仮面

かみたか さち

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面

【Nコード】

N6218Q

【作者名】

かみたか さち

【あらすじ】

仮面をつければ、容易に場に合った心理になり、ふさわしい言動ができる世界。こんなこともあるかも。

中学生の娘が代休ということで、油断していたのか、寝過してしまっただ。

私は慌てて出勤の支度をすると、主婦の仮面をはずしてクローゼットを探り、会社用の仮面を手についた。

「あと、片づけお願いね」

パジャマ姿の娘に言い置くと、私はパンプスをつっかけて家を後にした。

こんな日に限って、朝から顧客との打ち合わせが入っている。間髪でバスに滑り込むと、私はようやく息をついた。

娘の昼食など用意するのを忘れたのが気がかりではあったが、会社用の仮面をつければ、容易に気持ちは仕事モードに切り替わる。出社した私は仮面をつけると、会議室へ向かった。

机を囲む面々も、当然ながら各々仕事用の仮面をつけている。顧客は、取引先用のものだろうか。要求を通そうという意気込みが感じられる。

「では、この案につきましては」

顧客の示す資料の数字は、私たちの手に余る。意義を唱えようとする私の心に、思わぬ気持ちがあがった。

『いやだけど、合わせなきゃ。KYなんて言われるもの』

「……で、よろしいでしょうか」

顧客が自信満々の仮面で、責任者の私を覗きこむ。

「いえ、それは」

と言いたいけれど、仮面の口は相反する言葉を吐きだしそうだった。

私は憔悴にかられ、恥ずかしくも顧客に断って、手洗いへ駆け込んだ。

個室の鍵をかけ、震える手で仮面をはずすと、裏面に小さく、娘の字で『学校用』と書かれている。出かける際、間違って持ち出したようだ。

自分の失態を呪うとともに、家では言いたい放題の娘が、学校では思うように発言できないと知り、私はため息をついた。

結局打ち合わせは、顧客の意見を通す形となり、私は上司に嫌味を言われ、沈んだ気持ちで帰宅した。

娘は友達とどこかへ出かけたのか、不在だった。

朝、間違って持ち出した仮面を元に戻し、ふと私は、ずらりと並ぶ娘用の仮面に興味を抱いた。

家用と仕事用、主人の実家用の3つしか持たない私と違い、娘はずいぶんとたくさんの仮面を所有している。

一体、どのような種類があるのだろうか。

最初に手にしたのは、部活用だった。

次は仲良しの友達用、そして、あまり仲のよくない友達用、塾用。近藤君用などあり、これは片思いの男子生徒の前でつけるのかと、私はほほえましく思った。悪いと思いつつそつとつけてみると、若い時に感じた、恋のときめきが蘇るようだった。

そして、家用。こちらの付け心地は、まったりとアメーバのようならけた、しかし解放的な気分になる。

中学生も、なかなか顔を使い分けるのに苦労している、と複雑な気分でクローゼットを閉めようとした私は、一番下に隠すように置いてある仮面に気がついた。

裏を返すと、娘の字で『お母さん用』とつづられている。

これをつけると、どのような気分になるのか。
私はある種の恐怖を感じ、動けなくなってしまった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6218q/>

仮面

2011年10月8日17時23分発行